

ジャスコにみかん船が登場。

「わかやまみかん船」プロジェクト!

JAありだ、イオン(株)と和歌山県は協働で日本一のみかんをアピールするプロジェクトを立ち上げた。その名も「わかやまみかん船」。

もちろん紀伊国屋文左衛門のみかん船伝説からの命名だ。文左衛門は江戸のふいご祭りになくてはならないみかんが底についているということを聞き、嵐の中を和歌山からみかん満載で江戸に向かったことで名をはせた。

全国のジャスコ 167 店舗で実施。特に首都圏と近畿圏の2店舗では、大型みかん船を再現し、買い物客に強烈にアピール。何とも豪快な企画だ。また「有田みかん」3キロの入った「みかん船キット」も販売。みかんの段ボール箱がみかん船に変身するという遊び心もいっぱいだ。パッケージにはQRコードが添付されていて、農家の生の声や美味しいみかんの見分け方などの情報が提供される。



それはまさに異界、この世の浄土・・・

「那智の滝のライトアップ」

平成19年12月31日(大晦日)

今年も普段とはひと味違った幻想的な滝の姿が披露される。

点灯開始時間は午後5時前。大型投光器9基が、高さ133m・日本一の落差を誇る那智の滝に光を放つ。同時に鮮やかな朱塗りの三重の塔も夜空にくっきりとそびえ立つ。

めったに見られない滝の姿をぜひ一度・・・

■会場：那智山（那智勝浦町）
■時間：日没から翌夜明けまで
■お問い合わせ：那智勝浦町観光協会
TEL.0735-52-5311



お薦めの和歌山産品!! ここでお買い物を・・・

東京では・・・

有楽町駅前の東京交通会館の地下に、和歌山県の観光と物産のアンテナショップ「喜集館」があります。和歌山らしい商品を揃えた物産販売コーナーには旬の特産物や話題の商品がずらりと並んでいますよ。また、世界遺産登録の高野・熊野はじめ、和歌山県全域の観光情報がわかるコーナーも・・・

■営業時間／10:00～19:00（日曜・祝日は10:00～17:00）

■休館日／年末年始

■所在地／東京都千代田区有楽町2丁目10番1号 東京交通会館地下1階
TEL.03-3216-8000 FAX.03-3216-8002
E-Mail: wtkankou@sepia.ocn.ne.jp

ネットでお買い物もOK

まずは「わいわい市場」でインターネット検索を・・・

そこは、「紀州」和歌山の農林水産品から地場産品まで総合的に紹介・販売するオンラインショッピングモールです。果物、野菜、山菜、花卉、漬け物、みそ・醤油、果実飲料、地酒、水産品、麺類、お粥、備長炭、漆器、工芸品・民芸品、日用雑貨、織物、趣味用品など、紀州和歌山の特色ある産品が勢揃いしています。

産地からご自宅などに直送される真心こもった品々をぜひお試しを・・・



熊野に出現! 長さ50mの巨大な 露天風呂ってなんだ?

田辺市本宮町・川湯温泉の大塔川の河原に1日、長さ50m、幅15m、水深60cmの巨大な露天風呂「仙人風呂」がオープンした。

冬場の観光客の呼び物として、地元観光協会などが1985年から開設、すっかり定着した。重機で河原を掘り下げ、73度の温泉の湯に、川の水を流し込んで適温にしている。

シーズン中の安全を祈願した後、たんぽぽ保育園の園児ら16人が一斉に入り、大人の観光客らも水着姿で湯につかった。川崎市から夫婦で来た会社員近藤剛さん（43）は「自然のなかの温泉は期待通り。生き返りました」と満足そうだった。来年2月末まで無料で入浴できる。利用時間は午前6時半から午後10時まで。（11月2日・読売新聞）

＜地元記者の視点＞

実際に入浴もしてみたが、このスケールはただごとではない。熊野の中心部にあるということもあるのだろうが、それは別世界という表現がぴったりだ。田辺市から車で1時間、新宮市から車で30分という道のりだ。なお、混浴で水着着用となっている。

地球深部探査船

「ちきゅう」新宮港を出港

熊野灘の海底の地質調査を行い、東南海・南海地震発生のメカニズムや海底資源の状況を調査する、地球深部探査船「ちきゅう」が、9月20日、母港の新宮港を出港し、紀伊半島沖で調査を行っている。

探査船「ちきゅう」は、船体210m、5万7087tで、中央部の高さは20階建てのビル並みの巨大さ。今後3年以上にわたって、断続的に紀伊半島沖の熊野灘の海底地質調査を行う。近い将来発生するといわれている東南海・南海地震発生のメカニズム、地底の微生物や海底資源の状況を調査する。（9月21日・和歌山放送）

＜地元記者の視点＞

壮大な、そして夢のある調査である。水深2000m以上の海底をさらに7000m掘り進むと、そこは「マントル」と呼ばれる、まだ人類が知らない世界へと到達するという。そこには46億年の地球の歴史と、ずっと後になってやってくることになる生命体の発生の秘密が隠されているかもしれないというのだ。そしてもちろん大地震の発生のメカニズムにも迫るという。



阪和自動車道が南紀田辺まで開通

阪和自動車道が、11日、田辺市まで開通した。みなべ町徳蔵のみなべインターから田辺市稻成町の南紀田辺インターまでの5.8kmの区間で、あわせて開通する国道42号田辺西バイパス0.6kmに接続し、紀南の拠点都市・田辺市が県都・和歌山市や京阪神と直結した。

午前10時から、南紀田辺インター内で、冬柴鐵三・国土交通大臣や和歌山県の仁坂吉伸知事、県選出の国会議員など関係者が出席して、開通祝賀式が行われた。

今回の開通で、大阪から田辺まで約2時間に、渋滞の緩和や所要時間の短縮のほか、物流の効率化、観光の振興、災害時の緊急輸送路など様々な方面での効果が期待されている。

阪和自動車道としては、2003年10月に御坊一みなべ間が開通して以来、約4年ぶりの新区間の開通で、管理・運営するNEXCO西日本（西日本高速道路株式会社）では、当初予定よりも早い開通を記念し、来年3月末までの早期開通割引を実施、より一層の利用促進を図る。

一方、南紀田辺以南への延伸については、すさみ町までの38kmが、新直轄方式で、通行無料の道路として建設されることが決まっている。（11月11日・和歌山放送）

＜地元記者の視点＞

県南部の拠点都市・田辺市までの高速道路開通で、白浜温泉や世界遺産・熊野古道などの観光地へのアクセスが格段に向上する。しかし、最終的な県民の悲願は紀伊半島一周高速道路の実現だ。海岸沿いを通過する国道42号は、津波に襲われれば完全に寸断され、救援活動もままならない。道路整備については、地方の実情を見据えた議論が必要だ。

「食育応援弁当」県産品使いヘルシー



みかんはやっぱり和歌山ですよね・・・

和歌山県知事がみかんのトップセールス

ミカン生産高日本一の県産ミカンの本格的な出荷が始まり、7日、大阪市福島区の大阪市中央卸売市場で早生ミカンの初せりが行われた。仁坂吉伸知事も駆けつけて「大変おいしいミカンができました」とあいさつし、大阪市場に売り込んでいた。

JA県農によると、今年は少雨の影響があり、小粒だが糖度が高くなったという。この日は有田市、田辺市、日高川町などの主要産地から115tが出荷され、10kg1箱3万円の「ご祝儀相場」がついた。

ただ、品薄だった昨シーズンに比べ、市場価格はやや低めとなる見通しだ。出荷は2月末まで続くという。（11月8日・朝日新聞）

＜地元記者の視点＞

和歌山県産みかんのおいしさの秘密は甘さと酸っぱさの、その微妙なバランスにある。ここまでのおいしさに到達するためにみかん農家と研究機関の涙ぐましい努力があった。繰り返される品種改良と突然変異すらも取り込んでみかんの進化はとどまるることを知らない。

